

兵庫県立大学第2期中期計画業務実績に関する評価結果(概要)

兵庫県立大学評価委員会(委員長:石川啓、元関西大学長)が、第2期中期計画(H19~H21)業務実績の進捗状況について評価し、あわせて大学への期待と課題について取りまとめた。

評価:「全体として概ね計画どおり実施している」

【教育の一層の充実・強化】

評価できる取組

- ・ 専門職大学院など高度な専門教育体制の構築
- ・ フィールドワークなど実践教育の積極的な活用
- ・ ダブルディグリー・プログラムの開設準備
- ・ 中高一貫教育校の設置、中高大連携の充実

改善が求められる取組

- ・ TOEIC等を活用した英語教育の充実
- ・ 成績優秀者への授業料免除等インセンティブの付与
- ・ 卒業生データベースの構築、活用

主な意見、今後期待したい取組

- ・ 学生ニーズの継続的な把握と改善策の検討に努める
- ・ 教育力の向上に全学的に取り組む
- ・ 就職支援センター等全学的な就職支援体制を強化する
- ・ 基礎学力不足学生に対し初年次教育を充実する
- ・ 求められる人材を輩出する教育課程の検討に努める

【社会貢献の積極的な展開】

評価できる取組

- ・ 産業界との交流推進や研究成果の地域への還元
- ・ インキュベーションセンターを活用した次世代産業の育成

改善が求められる取組

- ・ ニュースパルの産業用分析チームラインの利用促進
- ・ 留学生データベースの構築、活用

主な意見、今後期待したい取組

- ・ 地域連携を促進する全学的組織の設置を検討する
- ・ 部局が連携した継続的な生涯学習プログラムを検討する
- ・ 企業からの卒業研究テーマ募集は実施部局を拡大する
- ・ 外国人留学生・研究者受入への支援を充実する

【研究のさらなる発展・高度化】

評価できる取組

- ・ COEプログラムの採択及びその研究体制の強化
- ・ 次世代スパコンの立地に伴う新研究科の開設
- ・ 専門領域の連携による学際的研究の推進

改善が求められる取組

- ・ 教員評価結果に基づく研究費の重点配分制度の検討
- ・ 業績を公開する研究者データベースの充実
- ・ 研究推進に関する施策を企画立案する全学的組織の整備

主な意見、今後期待したい取組

- ・ 競争的研究資金の採択率向上に向け教員を支援する
- ・ 学長裁量経費を活用し独創的研究に研究費を重点配分する

【自主的・自律的な管理運営体制の確立】

評価できる取組

- ・ 学長特別補佐の設置
- ・ 教員任期制の導入

改善が求められる取組

- ・ ハラスメント対策への取組
- ・ 教員評価結果の人員予算配分への反映

主な意見、今後期待したい取組

- ・ 大学の活性化に資する教員評価システムの構築、運用に努める
- ・ 事務局職員の専門性の向上を図る
- ・ 戦略的な広報活動により大学の知名度の向上に努める
- ・ 民間奨学金財団や研究助成財団を活用し資金調達する
- ・ メリハリの効いた教育研究体制のあり方を検討する

総合性の発揮、地域性の強化、効率性の推進の観点から、概ね順調に推移していると判断される。

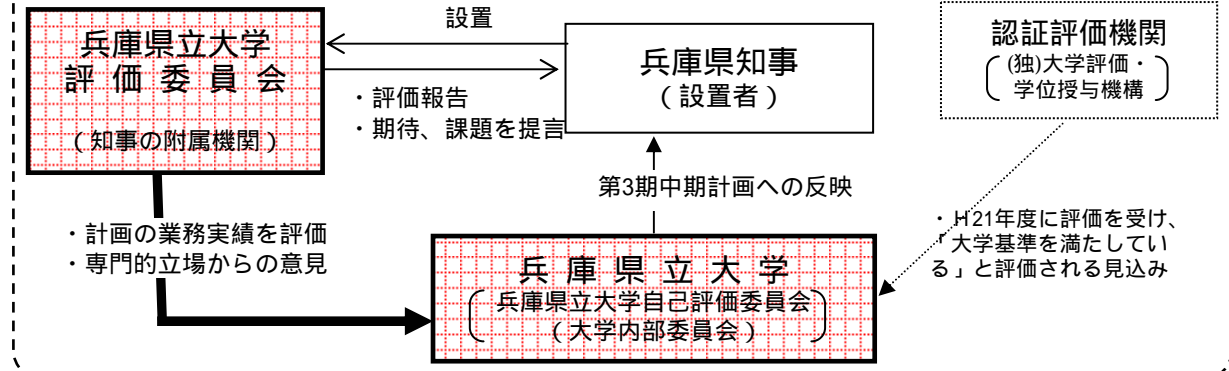
- 1 総合性の発揮 ~ 学部を超えた教育・研究の展開 ~
多彩な教養科目や他専攻科目の開講、遠隔授業の実施、学部間連携による学際的研究の実施
- 2 地域性の強化 ~ 地域連携の全学的展開 ~
地域活性化に貢献する特色ある取組の実施(全県キャンパス構想、産学連携の推進等)
- 3 効率性の推進 ~ 戦略的・機動的な大学運営 ~
学長のリーダーシップのもと学長特別補佐などの人的配置、学長裁量経費の活用

県立大学の統合の成果

< 残された課題 >

統合を促進すると同時に個性化・特色化を図る取組には、育成した人材の活躍やブランドイメージの定着等すぐに効果が現れないものもあるが、今後は、各学部等の個性・特色を明確に打ち出し、SNS等を活用した広報活動の一層の充実が必要。

大学評価の枠組み



今後への期待と課題

より一層魅力ある大学づくりに取り組まれることを期待し、次のとおり提言する。

各学部等の個性・特色の発揮
旧3大学が有した伝統と強みを継承しつつ各学部等が個性・特色ある教育研究活動等を推進するとともに、戦略的広報活動を展開し、大学の知名度を高められることを期待。

学生等のニーズの的確な把握
在学生への定期的な実態調査の実施、企業等アンケートの実施部局の拡大を図り、関係者ニーズの把握と調査結果の継続比較に努め、改善策を十分検討されることを期待。

教育の質保証システムの構築
教育の質的充実を図るため、学生の修学・キャリア形成支援や教員のFD活動等を包括的に捉え、教育課程の検討と教育方法の改善の一層の充実を期待。

英語教育の充実
国際化に対応した人材を育成するため、英語教育の充実を図るとともに、海外留学の促進や優秀な留学生の受入拡大を期待。

学際的研究の推進
総合大学として、部局間連携や研究者間の活発な情報交換により、特色ある学際的研究の一層の推進を期待。

地域特性を活かした研究の推進、他大学との連携
先端研究基盤が集積した兵庫県の特性を活かした研究の推進と、優秀な研究者との交流や他大学・研究機関との連携の推進を期待。

地域課題の解決を支援する全学組織の検討
産学連携センターに加え、地域との交流を深め地域課題の解決を支援する全学的な組織・体制づくりを期待。

高度な研究資源の社会での有効活用
ニュースパル等大学の有する高度で先端的な研究資源を社会で有効活用することに努め、大学と産業界がともに学びあう相互交流を期待。

PDCAサイクルの確立
達成すべき目標等をできる限り具体的に示した計画の策定と、進捗状況の客観的な把握、公表に努められることを期待。(PDCA: Plan Do Check Act)